

『一生懸命』 幻の新座市議会報告第192弾!

たかむらともや

2020年7月31日発行

アホか!

子どもたちの修学旅行はキャンセルにしておいて、今度は「go to travel」を言い始めた安倍政権。

「アベノマスク」「持続化給付金委託」で懲りずに、またまたいい加減なことをやろうとしています。

「持続化給付金委託」と同じように**利権**がらみで、仲間が儲かる仕組みなのでしょう。僕には「強盗トラベル」に聞こえてしょうがありません。「go toトラブル」だという人もいるようですが・・・

どっちにしたって、国民の税金を1兆円以上使うんですから、「アホか!」といたくもなります。本当にいい加減にして欲しい。

コロナ対策で命を懸けて働いていた医師や看護師の方達に「ボーナス0」という報道がありました。コロナに感染した患者を受け入れることで、病院が赤字になったというのが原因です。医療崩壊が心配だったら、まずはそこに税金を投入すべきでしょう。どこかの企業を使わずに、国が地方公共団体と連携して投入すれば済むことです。

ホテルや飲食店に関しても、自粛を要請したのですから、コロナ倒産する前に直接補償すればいいのです。それを、自分に献金した業者や業界に儲けさせようとするから、滅茶苦茶になるのです。

消費税を0に・・・

本当に経済対策が大事だと言うのなら「go to travel」などと変な英語を使わずに、「消費税を0」に戻せばいいのです。**国の借金などない**ことがバレてしまったのですから、大企業減税の為の消費税を0に戻せばいい。それがこの不況を乗り越える第一歩になります。**消費税を0にして困る国民はいません**。困るのは大企業だけですから・・・。



昭和52年五中最初の職員旅行です。23歳の僕は右下、隣は亨。後ろに神宮司久子がいます。

たかやんのプロフィール



1954年東京生まれ
本名たかむらともや
新宿区立西戸山中
石神井高、北海道大
庭球部卒。

昭和52年、当時新設校だった新座市立第五中学校に赴任。いきなり3年4組の担任となる。そりゃあないぜセニョール・セニョリータ。**先輩たちは新任に3年+2年生の理科まで担当させたのだ**。校内暴力が吹き荒れる時代、金八なんか目じゃない事件が起きる時代だった。バイクの後ろに中三の猛彦を乗せて走っていたら、暴走族の検問で捕まったり、大泉のヤクザのところに子どもたちを奪還しに行ったり。冷汗がでそうな話もたくさん。**21年間で骨折すること7回**。それでも一番大切にしてきたのは授業。そしてクラス。「一生懸命」は20年間書き続けた学級通信の名前である。現在は石神の「たかやん塾」で中高生と共に学び続けている。写真は五中3年4組のヒーコとのツーショット。23歳と15歳。兄妹かカップルに見えなくもありませんね。

たかやんの連絡先 自宅 042-456-8869 携帯 090-6497-5737

mail:takayanchan@jcom.home.ne.jp

〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

③ 駅立ち・・・

2月に駅立ちをしてから、もう半年近く駅立ちをしていません。駅立ちを始めて15年・・・

こんなことは、今までに一度もありませんでした。4月から高校1年生になった子たち、大学1年になった子たち、そして社会人1年生になった子たちと、まだ一度も駅で会ってないこととなります。本当に酷い話です。

これを書いているのは7月の終わり。中学生は定期テストが終わり、高校生はこれからテストという時期。朝、『テストがんばれー！』と、駅で声を掛けたいのを必死で我慢しています。いったい、いつになったら駅に立てるようになるのでしょうか。



24歳のころの僕です。初めての1年生の担任で幸せの絶頂だった記憶があります。最初の1年が大変だったので、本当に楽しかったのです。写真は多分、最初の遠足だと思います。左からポッポ、るり子、ゆかりです。

僕と丁度一回り違う子たちですから、この時は13歳で今は54歳ということになります。

この間、この学年の子たちと同窓会をやったのですが・・・自分のクラスではないのに、理科を教えた全ての子たちの名前をフルネームで覚えていたのに驚きました。

僕の隣に座っているるり子は僕の最初のクラスの友和と結婚をしました。教え子たちの結婚式には随分出席しましたが、二人とも、僕のクラスというカップルは3組いますが、学年をまたいでとなると、るり子と友和だけかも知れません。僕が活着ている内に、もう一度みんなと会いたいですね。

③ 学校っていうところは・・・

「緊張しろ！」「1. 2. 3. 頭の中で数えろ」「先生方に感謝してください」「ダラシナイ！」「フラフラするな」「中学生らしい格好しなさいよね」「ニヤニヤするな」「我慢しろ」

卒業式の予行に行くところという声が飛び交うのが今の学校らしい。「緊張しろ」「我慢しろ」という言葉は軍隊、刑務所、体育大学にはピッタリの言葉かも知れないが、僕の頭の中の学校にはいらぬなあ。『リラックスして』『我慢はするなよ。』僕ならそう言う。おまけにみんな怒った眼で子ども達をジロジロ見て、何か変なところは無いかを探す・・・スカートの丈で「良」か「不良」かを見分けようとする感覚に僕はどうしてもついていけない。

みんな違っていることが当たり前なのに、乱れているのが自然なのに。。。学校ってところは、一体何を教えるところなんだろう。

「笑顔」とか「優しい言葉」が人に力を与えるんじゃないかって僕は思っているんだけど・・・殆どないなあ、そういうの。みんなで睨んで命令語。それが今の学校だね。悪いところ、人と違うところを探して、指摘して何が育つんだろう。そして、不機嫌な顔の勢ぞろい。これじゃあみんな病気になってしまう。

30年前の新宿の中学校はもっともっと自由だった。校則も殆ど無かった。今の子達より沢山遊んだけど、勉強も沢山した。先生も色々だった。平気でぶっ飛ばす先生もいたし、いつもニコニコ笑顔だらけの先生もいた。ただ授業だけは面白かった。部活は週に3回くらいで、バンドを組んで歌う暇もあった。

先生の家にも遊びに行った。そう、中二から革靴を履いていたっけ。靴は自由だった。カバンも体操服も自由だった。勿論、靴下も自由だった。ただ校章とクラスのバッジを付けていればOKだった。名札は無かった。先生達は顔を見て、名前を覚えてくれた。僕はそんな先生達が大好きだった。僕はそういう先生たちに憧れて突然教師を目指した。

昔々の僕の学級通信『一生懸命』
教師を目指す人へ第832弾！から・・・